

中山晋平の小学唱歌「田植」

大月 和彦

戦時中に発行された国民学校の音楽教科書『初等科音楽一』（二学年用）に田植という唱歌がある。

そろた、出そろた、／さなえが、そろた。

植えよう、植えましょ、／みくにのために。

米はたからだ、たからの草を、

植えりや、こがねの花が咲く。（『日本唱歌集』岩波文庫）

同じ教科書には三勇士、軍旗、潜水艦、軍犬利根など戦意高揚をはかる歌ばかりでなく、春の小川、鯉のぼり、野菊、梅の花、村祭りなど自由でのびやかな歌も多く掲載されている。戦時色一色ではなかった。

田植の作詞・作曲の組み合わせが珍しい。作詞者は井上起。当時文部省図書監修官で、国語と音楽の教科書編集に携わる学者官僚。時勢に迎合せず子供中心の姿勢を貫いて多くの唱歌をつくった。花火、電車ごっこ、ポプラ、動物園など。

作曲は中山晋平。大正期から多くのヒット曲を作り日本のフォスターと呼ばれる大衆音楽家。かつて、文部省唱歌にあきたらなかった詩人や作曲家が起こした童謡運動の主導者の一人で、唱歌とは距離をおいていた。当時音楽家文化協会の要職にあった。ずっと批判的だった唱歌の作成に、文部省高官と組んでなぜ参画したのか。

そのいきさつを音楽教科書編集委員だった作曲家井上武士は次のように語っている。（雑誌『信濃教育』九四七号）。「昭和一六年、戦争が始まる前のこと、当時文部省の役人をして井上起氏が教科書のために田植を作詞した。編集委員たちはこの民謡調の歌詞を見て、これは中山晋平さんに作曲してもらおうということで見解が一致、中山さんに依頼した。完全な五音音階でみごとな中山節である。教科書に採用された中でこれが断然光っている…」

晋平が作曲した小学唱歌はこの田植だけだった。しかし戦後、国定教科書が廃止され、代わりに民間編集の検定教科書になると、シャボン玉、黄金虫、砂山、背くらべ、証城寺の狸囃子など晋平作曲の童謡が採用されるようになった。